愛知用水運動に使われた『明治川』

はじめに

『愛知用水史』(p. 136) には久野庄太郎が愛知用水実現のため、同志たちに『雨邨水利史談』(溝口三郎編、片原謙原著、1948 年、雄鶏社) を購入して配り、各方面には毎日新聞記者・岸哲夫の小説『明治川』(崇文館刊) を買い入れて配布したことが記されている。

緋田工は「愛知用水運動の回想」12 (ナゴヤジャーナル連載、1955 年 10 月) のなかで「愛知用水運動が始まって間もなく、明治用水の都築弥厚翁の事績を小説化した「明治川」と題する小説を数千部購入して、関係方面へわれわれの手で贈呈して参考に供したことがあるが、その購入資金は加藤氏 (逵注　加藤周太郎) の喜捨によるものであった。」と記している。

明治用水土地改良区に資料踏査に伺った際、『明治川』を所蔵しているとことを知り、見せていただくことにした。すると 2 種類の『明治川』が出てきた。著者は同じだが、出版年も出版社も異なっていた。調べてみると、他にも古本で両者とも違う『明治川』があることがわかった。

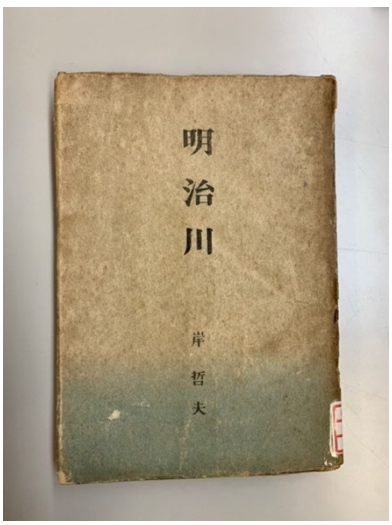
そこで複数の『明治川』を整理し、愛知用水運動に使われた『明治川』を探すことにした。

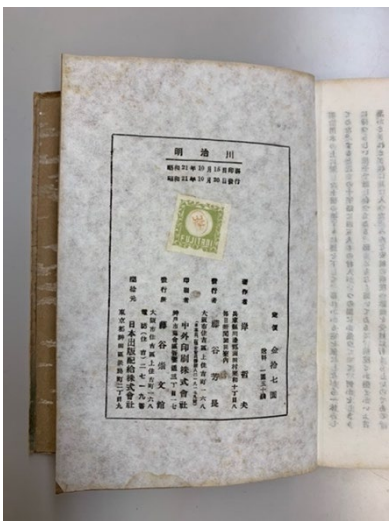
(1) 岸哲夫『明治川』1946 年 10 月、藤谷崇文館

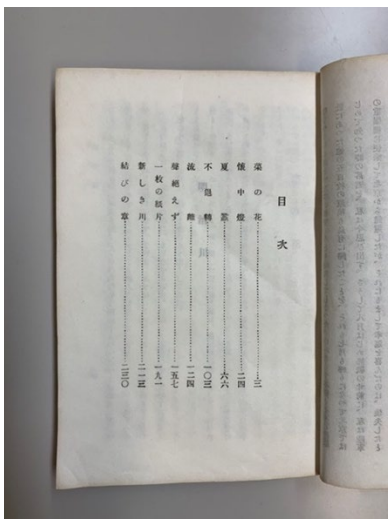
明治用水土地改良区所蔵

明治用水開削の小説。まえがきによれば、岸は毎日新聞記者で、この小説は昭和 19 (1944) 年に執筆し、出版会で 5,000 部の出版許可がおり、昭和 20 (1945) 年 1 月に初校が組み上がった。そこまでは岸自身が確認している。その後、岸は特派員として北京へ飛んだ。同年 3 月に大阪が爆撃にあって本も版も全て失ったことを、岸は 7 月になって知る。岸は落胆し、8 月の終戦直前に陸軍の飛行機に便乗して帰国した。

帰国すると、霞ヶ浦航空隊一海軍中尉が『明治川』の原稿を持っていたという。戦後昭和 21 (1946) 年夏、その原稿を大阪の出版社・藤谷崇文館で出版することにした。





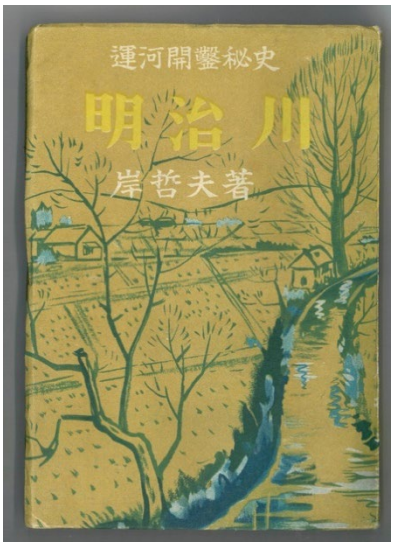


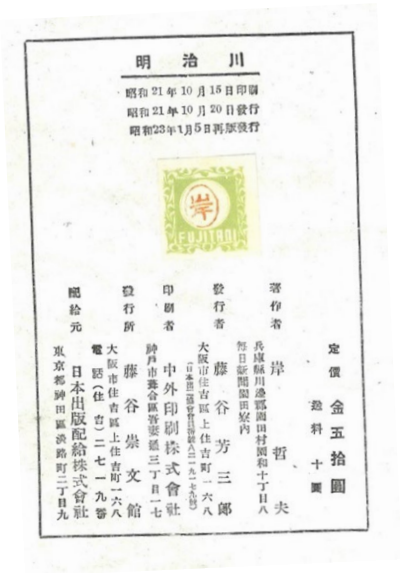
(2) 岸哲夫『明治川』1948 年 1 月、藤谷崇文館

愛知用水土地改良区所蔵

1946 年版の再版であり、前書き・目次・本文とも同内容と思われる。再版発行日「昭和 23 年 1 月 5 日」は愛知用水運動が正式に動き出す昭和 23（1948）年 5 月 5 日よりも早く、愛知用水土地改良区の見解では、久野庄太郎らが愛知用水運動のために多く買い付けたのはこれではないかもしれないということである。

しかし本の表紙には初版にはなかった「運河開削秘史」という言葉が新たに記されており、小説の内容が一目でわかるようにしている。愛知用水運動との関連は全く無いものと言い切ることはできないようにも思われる。




明治川

昭和21年10月15日印刷
昭和21年10月20日發行
昭和23年1月5日再版發行

定價 金五拾圓
送料 十圓

著作者 岸哲夫
兵庫縣川邊郡園田村園和十丁目八
發行者 藤谷芳三郎
大阪市住吉區上住吉町一六八
印刷者 中外印刷株式會社
神戸市長田區菅原通三丁目一七
發行所 藤谷崇文館
大阪市住吉區上住吉町一六八
電話（住吉）二七一九番
配給元 日本出版配給株式會社
東京都神田區淡路町二丁目九

目次

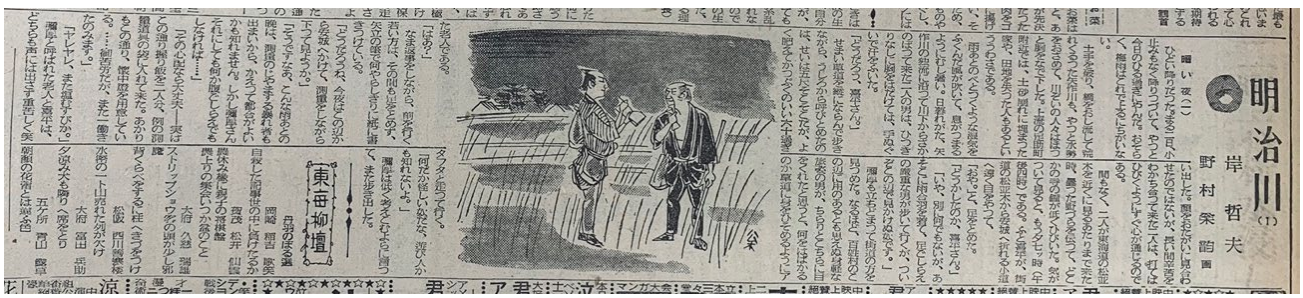
菜の花……三
懐中燈……二四
夏蠶……六六
不退轉……一〇三
流離……一二四
聲絶えず……一五七
一枚の紙片……一九一
新しき川……二一三
結びの章……二三〇

（３）岸哲夫　連載小説「明治川」1950 年 8 月 8 日-11 月 27 日、東海毎日新聞

名古屋市鶴舞図書館所蔵

これは一冊の本ではないが、岸哲夫が「東海毎日に特別の好意をもって連載をすすめられ」（東海毎日新聞 1950 年 8 月 3 日付）、構想を改めて 1950 年 8 月 8 日から 11 月 27 日の 111 回の連載小説「明治川」を東海毎日新聞に掲載したことがある。連載小説に添えられた画は野村栄韵によるものである。

名古屋市鶴舞中央図書館に『東海毎日新聞』　（東海毎日新聞社、昭和 21（1946）年 9 月～昭和 27（1952）年 11 月（休刊））があることがわかり、確認した。


明治川（1）
岸哲夫
野村栄韵画

東海毎日新聞（2 面）「明治川（1）」1950 年 8 月 8 日

（4）岸哲夫『明治川』1952 年 11 月、黎明書房

愛知用水土地改良区所蔵

先に記したものと書名は同じだが、目次も小説の冒頭も異なっている。これは東海毎日新聞に連載したものを単行本化しているようである。帯を山崎延吉が書いている。あとがきには小説連載の間に「熱心な読者から手紙やハガキをたくさんもらった」として、「愛知用水推進者の一人である久野庄太郎氏らの苦心談が、私の心を打った」と記されている。当時はまだ『明治用水』(1953 年)が刊行されておらず、『明治用水』の中心的執筆者・塚本学から数回にわたる書信があったことを記している。また、そのような理由から、明治用水に関する資料提供を明治用水組合にして欲しいとも記している。明治用水土地改良区（1952 年 4 月設立）と本小説の出版にはなにか関係があるだろうか。黎明書房は名古屋の出版社である。

山崎延吉日記（安城市歴史博物館所蔵）には、『明治川』について、次のような記録が残されている（改行は／、判読できない字は■で示した)。

1950（昭和 25）年 10 月 19 日　（朝）飯后幡豆の杉浦吉右エ門／来り明治川の記事に付て申／入をなす

1952（昭和 27）年 11 月 13 日　明治川の著者本を持／参　明治川を読む

11 月 15 日　明治川を読む　明治川はよい書■／はと思ひ加藤完治／に贈与とす

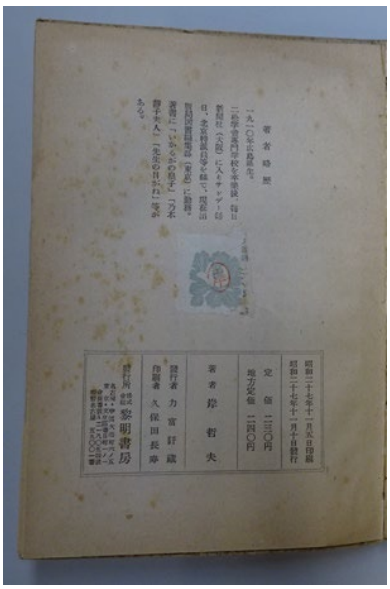
11 月 16 日　久野に原稿をかき／送付す

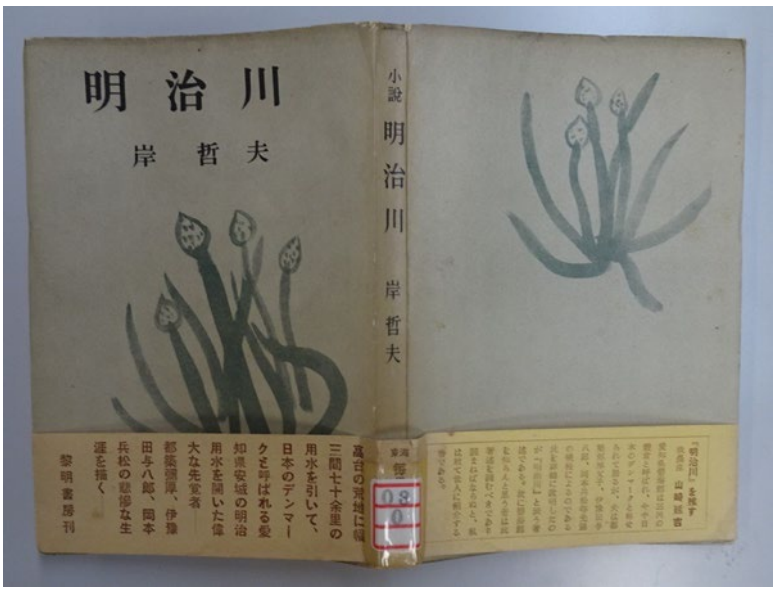
11 月 20 日　明治川を読み高■／を招き一冊を贈る　明治川十冊を恭呈／さる厚意を謝す

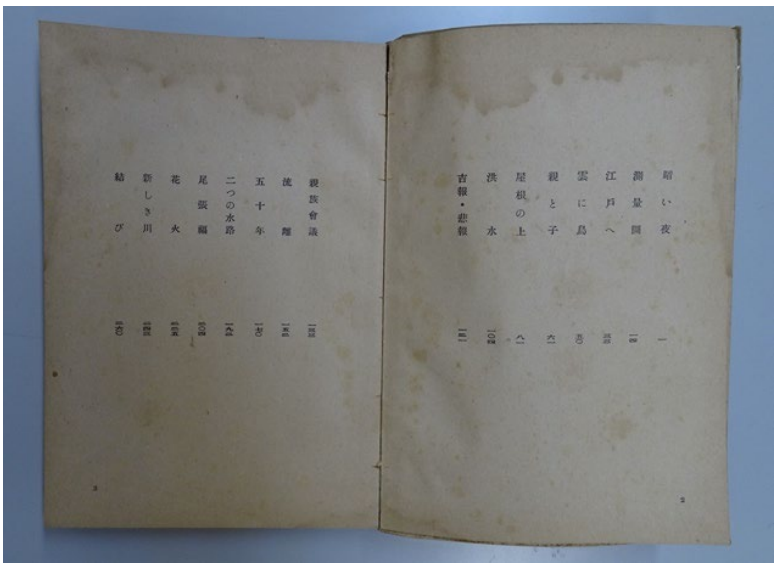
11 月 27 日　明治川を読み今日／の現状を見て感慨／無量

12 月 4 日　明治川を読了感慨／無量

1950（昭和 25）年 10 月 19 日は東海毎日新聞に連載されていた期間のことであるが、どのような申し入れをおこなったのかは不明である。この本が出版された際、山崎延吉はこの本を高く評価している。帯の執筆についても定かではないが、広く勧めたことだろう。







（５）岸哲夫『明治川』1952 年、黎明書房

上記と出版年も出版社も同じだが、古本としてオークションに出展されていたもので、内容の確認等はできていない。今後のために記録しておく。

（公財）愛知・豊川用水振興協会研究員　　逵　志保